

2021年3月期第1四半期 決算説明(電話会議) 実施概要

1. 実施概要

- (1) 日 時：2020年7月30日(木) 15:00~15:50…メディア向け
17:00~17:40…機関投資家・アナリスト向け
- (2) 出席者：執行役専務 佐藤 清輝、執行役専務 林 伸和
- (3) 内 容：第1四半期決算概要・通期計画説明、質疑応答

2. 主な質疑応答(要旨)

Q1. オーガニック国内が前年比16%増益と想定より良過ぎる印象ですが、特殊要因はありますか。

A1. 国内は食品、生活雑貨、医薬品関連等の顧客の物量が増えた事業所もありました。また、VC21に代表される生産性改善活動も裾野を広げて行っており、当社グループの陸運会社だけでなく本社部門も含めて展開しています。これらの取り組みにより増益に繋がったと思われます。

Q2. 営業利益増減要因の中で、コスト抑制効果が+15億円と結構大きいですが、具体的な中身は何ですか。

また、通期計画ではコスト抑制が記載されていませんがどの程度想定されていますか。

A2. 1Qでは新型コロナウイルス影響を含む減益要因が30億円程ありましたが、時間外、旅費などの統制可能経費の削減ができており、減益幅が圧縮されています。通期では経済活動が回復してくるに伴い、統制可能経費の抑制効果は大きく拡大しない前提としています。一方、バンテックや日立物流バンテックフォワードイングからの人財シェアリングなどによる派遣社員の抑制効果は継続すると考えています。

Q3. 非稼働に伴う固定費を約13億円「その他の費用」に計上していますが、差し引いた営業利益の実態は57億円程になりますか。

A3. 休業による固定費を約13億円に計上していますが、補助金として約5億円を「その他の収益」に計上しています。実態からみると、70億円から約8億円差し引いた数字になります。

Q4. SGホールディングスとの協創の進捗はどうですか。新型コロナウイルスの影響はありますか。

A4. 協創効果は着実に積み上がっていますが、新型コロナウイルスの影響により、国内・海外において打合せ等に制限を受け、案件の期ずれ・中断などがありました。

Q5. バンテックが2Q以降黒字化する根拠・背景を教えてください。

A5. 2Qより黒字化の見通しですが、当社としては保守的に見て計画を立てています。また、バンテックから約250名をオーガニックの事業所で受け入れており、2Q以降もコスト削減を継続していくことを織り込んでいます。日立物流バンテックフォワードイングからも約100名をオーガニックの事業所へシフトします。

Q6. バンテックが3PLを下支えする輸送コアカンパニーへ変革するというのは、具体的にはどういうことでしょうか。

A6. バンテックグループは輸送事業を行っており、大型車を中心に多くの車両を有しています。オーガニック陸運会社の車両や協力会社も含めて、バンテックが輸送のコアカンパニーとして、車両全体の管理を含めた見える化・デジタル環境整備を行うことで、従来の古いスタイルの輸送から脱却していきます。

Q7. 戦略投資は今後も継続していく予定ですか。

また、スマートウエアハウス、SSCV、SCDOSに関する進捗状況を教えてください。

A7. 今後も今と同じペースで実施していく予定です。SSCV-Safety はほぼ完成しており、現在はバイタルデータ収集デバイスの最終選定を行っております。SSCV-Smart、SSCV-Vehicle は取り組んでいる最中ですが、2021年中には完成する予定です。スマートウエアハウスはECプラットフォームセンターとして既に稼働しています。また、KDDIと5Gを活用した物流高度化の実証実験を行っており、来年の今頃には稼働予定です。SCDOSはシステムの形はできており、現在はアプリケーションの充実化を図っており、複数社に実践導入しています。

Q8. 新型コロナウイルスの通期の売上収益・営業利益への影響を教えてください。

A8. 通期の新型コロナウイルス影響は売上収益で▲250億円、営業利益で▲50～▲60億円程度と予想しています。

Q9. 1Qの減収幅に比べて、通期の減収幅が小さく楽観的に見えますが、その背景を教えてください。

A9. 欧米は徐々に戻りつつあり、バンテック顧客も徐々に活動を再開しています。一方、国内で繁忙であった業種も一部通常に戻ることが想定されますので、両方を考慮して保守的に計画を立てています。また、2019年度4Qには新型コロナウイルス影響があった為、通期の前期比では違和感無い数値です。

以上